

この度、小川にお住まいの田中誠様より「講演会の報告」の投稿がありました。参加できなかった方々のご参考に掲載いたします。有難うございました。 つくし野ネットくらぶ

講演会「地域で生きる ～ボランティアへの招待～」

報告者：小川在住 田中 誠

共に生きる会・つくしの（代表：直井治子氏）の主催で、桜が満々と咲き誇る日和の中で、地域活動についての素晴らしい講演会が開かれました。

講師・南直樹氏

町田市 玉川学園在住 NHK解説委員（福祉・医療・環境関係）
町田市民生児童委員

日時： 2008年3月29日（土）13：30～15：50

場所： つくし野センター 第二会議室 無料

* 解説の内容の要点に触れながら、感想・所感を随所に入れて記述してゆきますが、もしも、記述に誤りがありましたら、ご指摘下さい。

●冒頭に、直井代表から地域のボランティアのあり方などについて挨拶がありました。



南さんは、解説に先立って、次のように挨拶されました。

NHK解説とか民生児童委員などで身につけたものを、生活習慣に生かせるようにしたい、また、解説にも生かしてゆきたい。16年間ボランティア活動を続けてきたので、これらについてお話してゆきたい、というようなことを話されてから、パワーポイントを駆使しての講演になりました。

冒頭の映写では、

- (1) 私は何をしたら良いのか 活動を始めたい人への多様な入り口の紹介
- (2) 活動によって得られるもの
- (3) ボランティア活動 これからの発展

このようなテーマから始まりましたので、参加者は自分のボランティア活動へのいろいろな思いを巡らしてから、聴講したのではないかと感じています。



次に、二日前に写されたつくし野の写真などを紹介され、つくし野は歩いて散策すると楽しい街だと話されました。多分、参加者の人たちに、つくし野の素晴らしさを自覚させて、ボランティア活動への糸口になればと気遣いされたのでしょう。

「かしの木山自然公園」の数々の映像を紹介されました。

この公園は起伏に飛んだ丘で、地域の運動によって自然公園として残されたそうです。植物観察会の写真や樹木の写真などを紹介してから、この雑木林の維持に係わっている約260名の人たちが、三つの班に分かれて活動している数々の事例を述べられました。

年齢を重ねてもボランティア活動をしていることは素晴らしく、自分で出来ることをしてゆけば良いのだと話されました。

夏休みに、子どもたちが家族と集まって、植物の観察の指導を受けている映像は、自然への親しみを覚えるのに、とても良い手法だと思いました。

南さんは、1992年のリオデジャネイロでの地球サミットに参加したことが境になって、環境への関心を募ったと述べられました。

このように、ボランティア活動を手がけるには、一般的に何かのイベントへの参加などが、きっかけになるのではないかと言うことでしょう。

2007年11月に第13回「かしの木山フェスタ」が開かれて、約600人の参加で、次のようないろいろな行事が催されました。

・竹細工工作、 ・ひつつき虫遊び（ダーツ）、 ・縄文式火起こし、 ・竹馬遊び

南さんも、植物の生態の紹介、植物名の当て方、など、植物観察部会のメンバーとして活躍されました。

→→これらの事を話されたのは、自然に親しむことの大切さを述べたかったのでしょうか。

.....

●ここから、ガラッと講演の内容が変わりました。

ボランティアを受けている立場からみて、次のような形態もあるそうです。

「介護されボランティア」 「そこに居るだけのボランティア」 「ご馳走になりボランティア」

次に、「ケアセンター成瀬」などの紹介がありました。



この活動は西嶋医師の呼びかけで始まり、福祉活動への住民参加として評判が高く、全国から3000人を超える人々が視察に見えています。

住民で造る福祉を考える運動で、13のボランティアに分かれて活動しています。住民の参加意識の高さが、このような運動を支えています。

運動の主体は団塊の世代の人々が真剣に考えてのことで、住民が無理をせずに自由参加しています。

自治体とNPOが協働していくことの成果であり、ボランティアの活動のあり方への再検討への繋がりになっています。



「桜実会高齢者在宅サービス」

デイサービスの活動として、囲碁、将棋、マージャンなどを行なって、時間を共に過ごすこともボランティア活動と思います。



「デイサービスの四季」・・・南大谷

男性と女性にそれぞれに二句ありましたが、一句を書き留めました。

「年老いて 花散るごとく 去り行かん」 明治43年生（男性）

「さくら花 表をみせて 裏も見せ」 大正14年生（女性）



次に、「ボランティア活動参加のきっかけ」の紹介がありました。

【その1】

・趣味から入る方法 ・地域の問題に取り組んで入る ・自分が抱えている問題から

【その2】

・我が家の問題から入る ・我が家を拠点に活動を始める方法

【その3】

今あるボランティア・グループに入ることから始める方法として、社会福祉法人の町田ボランティアセンターの「わたしにもできるボランティア 年間活動案内2007」の資料が配られました。

児童、障がい、国際交流、自然環境、高齢者、一般、などの6分類に分けてあり、全部で56団体が掲載されています。

「今、ホットなテーマのボランティア」としての紹介です。

- ・家族介護者への支援
- ・昼間一人暮らしの高齢者に語らいの場
- ・災害時要援護者支援のボランティア・・・災害時の支援として中越地震の実例の紹介
- ・災害時要援護者支援制度
- ・・・愛知県安城市の実例の紹介
- ・修道院のシスターメアリーの話

頭を使うことによって、退化を防ぐことが出来ることを映写で紹介がありました。

【ボランティア活動をして良かったこと】

- ・新しい友人ができた (64%)、
- ・自分自身の生きがいを得た (50%)
- ・活動自体が楽しかった (48%)
- ・活動先から感謝された (43%)
- ・自分自身の啓発につながった (43%)

これらの印象を持つことが出来るのだと、述べられました。



【ボランティア活動 これからの発展】

- ・2007年から、団塊の世代が集中的に活動を始められる状況です。
- ・ボランティアが多様化していけば、無償ボランティアの限界がありそう。
活動次第では、有償であるのか、あくまで無償であるのかの議論になりますが、サービスの内容によっては、有償にしても良いのではないのでしょうか。
- ・今後、有償化や、NPOへの道の模索になるでしょう。
- ・「生活支援福祉」から「おしゃれな福祉」、
- ・「十把ひとからげの福祉」から「一人ひとりの福祉」へ

【福祉活動は、小学校区の時代へ】

- ・半径3キロメートル以内で、普段着で集まれる距離にて。
- ・町田市では、小学校区が40地区あります。
平均すると、1小学校区あたり高齢者（65歳以上）は、1800人
要介護認定を受けた高齢者は、300人
元気な高齢者は、1500人



- 元気な高齢者が、介護が必要な高齢者を支える側にまわれば、新しい地域社会づくりになると締めくくられました。 ～14:50

この後に数人の人からいろいろな質疑応答がありましたが、とても克明な解説を加えていただいて、無事に講演が終了しました。 ～15:40

【総括】 南さんがパワーポイントでの映写を基に、ゆったりと多方面から解説をされましたので、主に福祉部門でのボランティア活動が手に取るようにわかり、福祉は自分で築いていくという南さんの意欲的な行動に関心を寄せながら聴講できたひと時でした。

そして、ボランティア活動は、自らの趣味から入っていくことが一番入りやすいことにも気がつきました。

また、率先して行動していくことの大切さを学んだと、参加の皆さん、感銘を受けたことでしょう。

満開な桜のこの時期に、心豊かな気持ちになれました。 有り難うございました。

194-0003 東京都 町田市 小川4-13-6 田中誠

TEL/FAX 042-795-6239

Mail: mktanaka2003@yahoo.co.jp